

下館第一高等学校附属中学校 オーストラリア学校交流2022 レポート

1. 出発 令和4年8月11日～12日

中学3年生23名が、高校1・2年生42名とともに、オーストラリアのパスに出発しました。

パスでの学校交流は下館第一高等学校が続けている国際交流事業の一つです。2020年と2021年はコロナ禍のため実施できませんでしたが、今年度から再開しました。附属中学校の生徒も3年生から参加可能となり、3年生となった第1期生が参加しました。高校生も中学生も、参加にあたっては生徒自身の希望が第一条件で、1クラス40人の中からこれほどの人数が参加してくれたことは嬉しい驚きでした。

11日の午後学校を出発し、羽田空港からシンガポールを経由して、12日の午後パスに着。ここから学年ごとに分かれてバスに乗り。中学3年生は夕方に、St. Stephen's Schoolの駐車場でホームステイ先のホストファミリーと対面しました。事前にメールでやりとりしていた生徒もおり、全員が期待に胸を膨らませ、満面の笑みで挨拶を交わし、それぞれホスト宅へと向かいました。

今回、生徒はペアまたは一人でホームステイしています。それぞれのホストファミリーに日本から持って行ったお土産を渡し、カードゲームをしたり、早速観光に連れて行ってもらったりと、楽しい夜を過ごしたそうです。



ホストファミリーとの顔合わせ。大歓迎してくださいました。

※本校生徒は写真撮影用にマスクを外しています。

2. 遠足(1) カバシャムワイルドライフパーク、ハングオーバーベイ、ピナクルズ

令和4年8月13日

中学生と高校生に分かれて、カバシャムワイルドライフパーク、ナンバン国立公園ピナクルズ、ハングオーバーベイを観光しました。天気は曇り時々雨、時々晴れ(冬のパスは天気がとても変わりやすいのです)。

カバシャムワイルドライフパークはオーストラリアの固有種を集めた動物園で、生徒たちはコアラやウォンバットに触れさせてもらったり、カンガルーに餌をやったりして、楽しい時間を過ごしました。

ピナクルズはパスから北に約200キロのところにある奇岩群で、広大な砂漠の中に多様な岩が乱立しています。世界最大といわれるその光景に、生徒たちは目を見張っていました。

ハングオーバーベイは非常に美しい海岸なのですが、ピナクルズに向かう途上で昼食に立ち寄った際は残念ながら大雨でした。しかしピナクルズからの帰途には短い時間ながら晴れ間がのぞき、再度立ち寄ってその美しさを堪能することができました。生徒たちは波と戯れ、美しい自然を満喫していました。



↑ オーストラリアの固有種たちと一緒に

↑ ピナクルズ ↓



↑ ハングオーバーベイ



3. St. Stephen's Schoolにて 令和4年8月15日～18日

(1) バディとの出会い

学校交流は、学年ごとに訪問する学校が異なります。今年度の中学生は、St. Stephen's School のCarramar Campusにて現地の生徒たちと交流し、授業に参加しました。St. Stephen's Schoolは幼稚園から高校までの生徒が通う私立学校です。登下校はホストファミリーに送迎していただきました。

校長先生方からのご挨拶に続き、キャンパスツアー、現地のコーディネーターさんによるオリエンテーションを経て、いよいよ4日間を共に過ごす現地生徒との対面です。同年齢である9年生の希望者が「バディ」となり、生徒たちは自分のバディが履修している授業を一緒に受けます。

最初こそ緊張の面持ちでしたが、挨拶を交わしておしゃべりしているうちに、あっという間に打ち解けました。St. Stephen's Schoolの生徒たちも、本校生徒たちの訪問をとっても楽しみにしていたそうです。そして、早速それぞれの授業へと向かいました。



校長先生のお話



キリスト教系の学校で、外にも祈りの場がありました



初顔合わせ、とにかく話してみよう！（ドキドキだけどお互い興味津々）

バディと一緒に記念撮影！



(2) 授業の様子

日本と違い、オーストラリアの中学校は生徒が自分で科目を選択できる幅が広く、日本における大学のよ
うな形になっているので、一人一人が異なる授業を受けることになります(ときどき全員が同じ科目を受講す
ることもありましたが、そのときでも教室は2~3に分かれていました)。

広く緑豊かなキャンパスのあちこちで、生徒たちはさまざまな授業に参加しました。「自分たちが授業ごと
に毎時間教室を移動するんだ……」「授業が少人数だね」「授業中にレポートを書くことが多いみたい」な
ど、生徒たちは日本との違いを強く意識したようです。

授業中、個人やグループでの作業になると、バディが説明や解説をしてくれました。どうしても説明が難し
いというときには、パソコンやスマートフォンでGoogle翻訳などを駆使してやりとりしていました。



理科。グラスの形と水の量で音はどう変わる？



調理実習。



できあがり!



音楽。スコアを見ながら交響曲を聞く。



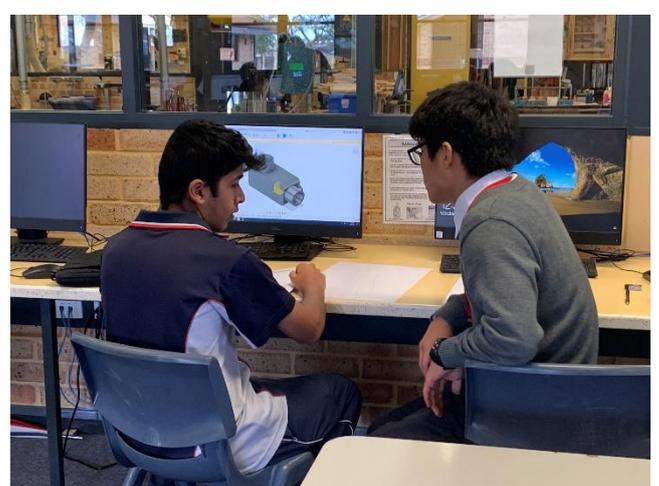
美術。自画像にデザインの要素をプラス。



体育でバレーボール。全力&本気で!



Child Careの授業。床に座ったりするのも日本と違う!



Engineeringの授業。3Dで設計図を作っていました。

(3) リセスと昼食

オーストラリアの学校には、午前中に「リセス」というおやつの時間が20分ほどあります。果物やお菓子を食べたり、芝生で遊んだりすることができ、生徒たちに好評でした。リセスやお弁当はホストファミリーが用意してくださいました。生徒たちはリセスや昼食をバディと一緒に食べ、余った時間はおしゃべりしたり、芝生で遊んだり、体育館でスポーツをしたりしていました。図書館でチェスをする生徒たちもいました。



それぞれが好きな場所で食べます。

↑ 謎の遊び。



もちろん、次の授業に遅れないように移動します。



生徒たちがオーストラリアンフットボールの蹴り方を教えてもらっていました。「意外と難しかった」とのこと。



図書館でチェスをする生徒たちもいました。勝負の行方はいかに。

(4) 午後のアクティビティ

午後は、今回の研修のために用意して下さった特別プログラムに取り組みました。15日～17日の3日間、3つのグループに分かれて、ロッククライミングや調理、演劇、美術などに取り組みました。

本校生徒はロッククライミング初体験という者が多く最初こそ苦勞していたようですが、何人かは頂上まで辿り着くことができ、拍手喝采が湧き起こっていました。

調理ではオーストラリア名物のベジマイトを使ったCheesy vegimite rollを作りました。生地にごく少量のベジマイトを薄く塗り、とろけるチーズをたっぷりかけて焼くと、ちょうどいい味になるのです。そこでベジマイトをお土産にしようと決めた生徒もいたようです。



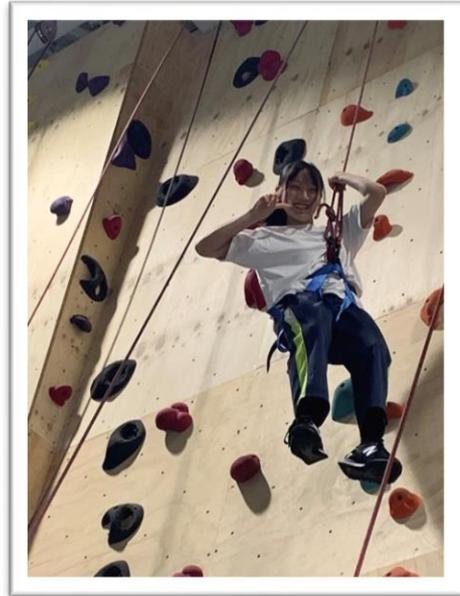
体育館でロッククライミング!



演劇。いかに早く指定ポーズができるか勝負。



美術。粘土で作品づくり&アボリジニの旗について。



登頂成功!



調理は生地を作るところから。



美味しくできました!

(5) Farewell Celemony 令和4年8月18日

授業最終日の午後、バディたちとのFarewell Celemonyが開かれました。

最終日ではありますが、私たちの学校や筑西市について知ってもらうためにプレゼンテーションの機会をいただきました。まず、筒井さんと小堀さんが英語で本校の紹介をしました。本校の様子をまとめたプロモーションビデオを見てもらうことで、お互いの国の学校の違いを感じてもらうことができたと思います。また、武井さんが英語で筑西市の紹介をしてくれました。その中で筑西市の名産品である梨を紹介したのですが、梨はオーストラリアでも日本語で知られているようで、英語でpearsと言ったときよりも、その後「梨」と日本語で言ったときの方が”Oh…!”と反応が大きく、オーストラリアの生徒たちの日本への興味関心の強さを感じました。

その後、St.Stephen's Schoolの校長先生がご自身の日本とのつながりについて話してくださり、意外なつながりに現地校の生徒たちも沸き立っていました。

最後に校長先生から記念品として本校生徒一人一人にコアラのぬいぐるみが手渡されました。コアラが着ているシャツにはSt. Stephen's Schoolの校章が描かれており、思い出に残る品となりました。

そしてとうとうお別れのとき。手紙を渡す生徒あり、お土産をもらう生徒あり。時間が許す限り話したりハグや握手をしたりして、バディと最後まで別れを惜しみ、中には涙ぐんでしまう生徒もいました。お互いにSNSのアカウントやメールアドレスを交換したりもしていましたので、ぜひ長く交流を続けてほしいと願います。



4. 遠足(2) ロットネスト島一日ツアー 令和4年8月19日

高校生たちと一緒に、フェリーでロットネスト島へ向かいました。天気は晴れ時々曇り、時々シャワー。海は若干波が高く、船旅をジェットコースターのように感じた生徒もいたようです。途中、鯨がフェリーと並走しているのを見ることもできました。

ロットネスト島に到着すると、中学生と高校生に分かれてバスで島内をめぐりました。島には数多くの美しいビーチがあり、バスが止まると生徒たちは我先にと走って砂浜に向かい、波と戯れたり砂の感触を楽しんだりしていました。バスの中では、みんなのお目当てでもある固有種クオッカの話はもちろん、島内の独特な形をした木々や、島に住む大きなトカゲについてなど、島の自然について興味深い話をたくさん聞くことができました。

バスツアーを終えると、それぞれ昼食をとったり買い物にいそしんだり、クオッカを探して写真に収めたりと楽しい時間を過ごしました。



5. ホストファミリーとの別れ、帰途 令和4年8月21日

いよいよ日本へ戻る日となりました。ホストファミリーとは約十日間一緒に過ごし、ともに食事を作ったり遊んだり、さまざまな場所へ連れて行ってもらったりしてきました。週末に親戚を呼んでパーティをしてくれた、という話も聞きました。わずか十日間の間にホストファミリーたちとの間には確かな絆が生まれていて、生徒たちは心から別れを惜しんでいました。

空港へ向かう前に、キングスパークに立ち寄りました。大都会パースの美しい夜景を眺めたり写真を撮ったり、最後の思い出づくりができたようです。

8月22日、シンガポールを経て無事帰国。

多くの方の支えにより、今回の学校交流を無事終えることができました。ありがとうございました。

